

作成日 2017年6月30日
 修正日 2022年3月15日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	メタクリル酸イソブチル、(Methacrylic acid isobutyl ester)
供給者の会社名称	アーク株式会社
住所	大阪市北区西天満3丁目10-3
電話番号	06-6809-5970
推奨用途及び使用上の制限	アクリル樹脂原料、コンタクトレンズ原料、コンクリート混和材、可撓性樹脂・繊維処理剤・紙コーティング材・塗料・潤滑油添加剤原料

2. 危険有害性の要約

GHS分類 分類実施日

物理化学的危険性

JIS Z 7252、7253:2019 使用

火薬類	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
可燃性エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分3
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	タイプG
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分に該当しない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:ガス)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分に該当しない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) 区分1

水生環境有害性 長期(慢性) 区分に該当しない

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル注意喚起語
危険有害性情報

警告
引火性液体及び蒸気
皮膚刺激
水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。一禁煙。

容器を密閉しておくこと。

適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

火花を発生しない工具を使用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当をを求めること。

漏出物は回収すること。

火災の場合には適切な消火方法をとること。

【保管】

換気の良い冷所で保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質

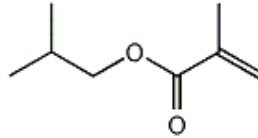
化学名又は一般名
別名

メタクリル酸イソブチル
2-メチルプロピル=2-メチル-2-プロペノアート、(2-Methylpropyl-2-methyl-2-propenoate)

分子式(分子量)

C₈H₁₄O₂(142.2)

化学特性（示性式又は構造式）



CAS番号 97-86-9
 官報公示整理番号(化審法・安衛法) (2)-1039
 分類に寄与する不純物及び安定化添加物 データなし
 濃度又は濃度範囲 100%

4. 応急措置

<p>吸入した場合 皮膚に付着した場合</p>	<p>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぐこと。 多量の水と石鹼で洗うこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。</p>
<p>目に入った場合</p>	<p>水で数分間注意深く洗うこと。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
<p>飲み込んだ場合</p>	<p>口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p>
<p>予想される急性症状及び遅発性症状 最も重要な兆候及び症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項</p>	<p>データなし データなし データなし データなし</p>

5. 火災時の措置

<p>消火剤 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性</p>	<p>泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂 棒状放水、噴霧水 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。</p>
<p>特有の消火方法</p>	<p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。</p>
<p>消火を行う者の保護</p>	<p>適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。</p>

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、保護具および緊急措置</p>	<p>全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。</p>
<p>環境に対する注意事項 回収・中和</p>	<p>環境中に放出してはならない。 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。</p>
<p>封じ込め及び浄化方法・機材</p>	<p>危険でなければ漏れを止める。</p>

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

保管
安全取扱い注意事項
接触回避
技術的対策
混触危険物質
保管条件
容器包装材料

データなし
データなし
消防法の規定に従う。
データなし
冷所、換気の良い場所で保管すること。
データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

未設定

日本産衛学会(2007年版)
ACGIH(2007年版)

未設定
未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具 呼吸器の保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な眼の保護具を着用すること。
適切な保護衣を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

衛生対策

9. 物理的及び化学的性質

物理的状 形状
色
臭い
pH

液体
データなし
データなし
データなし

融点・凝固点

-33°C: Sax (2004)

沸点、初留点及び沸騰範囲

153-155°C: Chapman (2008)

引火点

49°C (Tag open cup): HSDB (2003)

自然発火温度

496°C: IUCLID(2000)

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

3.63mmHg(25°C) [換算値 483Pa(25°C)]: HSDB (2003)

蒸気密度

4.8 (空気=1):(ホンメル,1996)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

0.879 (25°C; 4°Cの水と比較して):

溶解度

594 mg/l (25°C): HSDB(2003)

オクタノール・水分配係数

log Pow 2.66 : HSDB (2003)

分解温度

データなし

粘度

粘度: 0.9 mPa s (20°C):(IUCLID,2000)

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)	データなし
10. 安定性及び反応性	
安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし
11. 有害性情報	
急性毒性 経口	ラットのLD50が6400～12800, 9600, 11824 mg/kgであり(CECOTOC JACC 36,1996)、区分に該当しない。
経皮	モルモットのLD50値が>17760 mg/kg であり(IUCLID, 2000)、区分に該当しない。
吸入	吸入(ガス): GHSの定義における液体である。 吸入(蒸気): ラットの6時間LC50は3600 ppm以上(CECOTOC JACC No.36,1996)であり、4時間換算値は約4410 ppm以上 となる。蒸気圧にはHSDB(2003)に3.63mmHg(25°C)[換算値 483Pa(25°C)]、Howard(1997)に4.11mmHg(25°C)[換算値 547Pa(25°C)]があり、それぞれの飽和蒸気圧濃度を換算すると4782 ppm、5416 ppmとなり、飽和蒸気圧濃度の90%より低い値であるので「ミストがほとんど混在しない蒸気」であり、区分4または「区分に該当しない」となり、データ不足のため分類できない。
	吸入(粉じん): GHSの定義における液体である。
	吸入(ミスト): データなし
皮膚腐食性・刺激性	ウサギの24時間適用したDraize Testにおいて、明確な紅斑と中程度の浮腫がみられた(CECOTOC JACC No.36(1996))とあり。さらにEU分類では Xi,R36/37/38であることから区分2とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギの試験(OECDガイドライン405準拠、GLP) CECOTOC JACC No.36(1996)によると「区分に該当しない」である。EU分類が R36/37/38iであるが、専門家の判断により「区分に該当しない」とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: EU分類がR43であり、ヒトでのパッチテスト(IUCLID,2000)において5人にアレルギー性過敏症との報告があるが「あいまい」との評価である。モルモットを用いた試験(CECOTOC JACC No.36,1996)における陰性データがあり、データが限定的であるため分類できない。
生殖細胞変異原性	マウスの骨髄細胞を用いた小核試験(OECDガイドライン474)(CECOTOC JACC No.36,1996)(体細胞in vivo変異原性試験)において陰性であることから区分に該当しないとした。
発がん性	データなし

生殖毒性	ラットの妊娠5、10、15日目に腹腔内投与した発生毒性試験において、吸収胚、骨格異常の報告 (ECETOC JACC No.36(1996))があるが、生理食塩水、綿実油を用いたコントロール群にも骨格異常が認められ、腹腔内投与も不適切であるとの記述があるため、分類できないとした。
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	ラットの4時間の吸入試験において、14日目には回復する運動低下、斜視、眼の紅斑、軽度の呼吸困難などの症状が2mg/L(飽和蒸気圧の90%未満で蒸気と考えられる)以上の用量で報告 (IUCLID(2000))されているが、他に情報がなくデータ不足で分類できない。
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	ラットの吸入による4週間試験および混餌による4～6ヶ月試験(いずれもPATTY 5th(2001))のデータは、投与量やばく露時間などの詳しい記述が無く、データ不足により分類できないとした。
誤えん有害性	データなし
12. 環境影響情報	
水生環境有害性 短期(急性)	藻類(Pseudokirchn eriellea subcapitata)での72h-EC50=0.29mg/L(ECETOC, 1997)であることから、区分1とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	急性分類は区分1であるが、急速分解性があり(OECD TG301Dでの28日分解度=74.3%(ECETOC, 1997))、かつ生物濃縮性が低いと推定される(logPow=2.66 (ECETOC, 1997))ことから、区分に該当しないとした。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制 海上規制情報	IMOの規制に従う。
航空規制情報	ICAO/IATAの規制に従う。
UN No.	2283
Class	3
国内規制 陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規制に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に進行。
緊急時応急措置指針番号	重量物を上積みしない。 130P
15. 適用法令	
消防法	危険物第4類第2石油類

船舶安全法
航空法
港則法

引火性液体類
引火性液体
引火性液体類

16. その他の情報
参考文献

各データ毎に記載した。